

### 1. 企画趣旨

本研究会は、本学の抱える諸問題・課題、社会情勢及び教育政策の動向やその対応等について、学内外から講師を迎え、参考となる話題を提供してもらい、本学の管理運営、教育研究の改善・改革等に資することを目的としている。令和2年度は9年目を迎え、ハラスメント防止、研究活動におけるコンプライアンス、認証評価の評価ポイント、オンライン授業、キャリア教育と専門教育の融合、就職活動の動向と見通しに関する講演会を、年間で計6回にわたって開催した。

### 2. 実施概要（開催日時・テーマ・参加者数）

本研究会の開催数は、初年度である平成24年度には6回、平成25年度に4回、平成26年度に5回、平成27年度に2回、平成28年度に第4回、平成29年度に8回、平成30年度に6回、令和元年度に5回、総計40回を数え、令和2年度は第41回目からの開催となる。

#### 「第41回 大学問題研究会」

日時：令和2年7月16日（木）16時～

実施方法：Zoomミーティングによるライブ配信

講師：株式会社シー・イー・アイ 社会保険労務士 白石美和氏

テーマ：「ハラスメント防止研修」

参加者数：217名（教員147名、職員70名）

#### 「第42回 大学問題研究会」

日時：令和2年8月31日（月）13時～9月30日（水）17時まで

実施方法：Streamによる録画配信

講師：ロバスト・ジャパン株式会社 矢野覚士氏

テーマ：「研究倫理コンプライアンス研修」

参加者数：160名（教員134名、職員26名）

#### 「第43回 大学問題研究会」

日時：令和2年10月15日（木）16時～

実施方法：Zoomミーティングによるライブ配信

講師：公益財団法人日本高等教育評価機構 常務理事・事務局長 伊藤敏弘氏

テーマ：「令和3年度認証評価のポイント～内部質保証を重視した評価ポイント～」

参加者数：215名（教員143名、職員72名）

#### 「第44回 大学問題研究会」

日時：令和2年度10月22日（木）15時～

実施方法：Zoomミーティングによるライブ配信

講師：早稲田大学 人間科学学術院 教授 向後千春氏

テーマ：「オンライン授業のデザインと実施の工夫」

参加者数：218名（教員142名、職員76名）

#### 「第45回 大学問題研究会」

日時：令和2年12月17日（木）16時～

実施方法：Zoomミーティングによるライブ配信

講師：大妻女子大学 人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻 准教授 本田周二氏

テーマ：「キャリア教育と専門教育の融合、先進事例から学ぶ」

参加者数：216名（教員142名、職員74名）

## 「第 46 回 大学問題研究会」

日 時：令和 3 年 2 月 18 日（木）15 時～

実施方法：Zoom ミーティングによるライブ配信

講 師：株式会社リクルートキャリア リクナビ副編集長 野々口綾乃氏

テ ー マ：「コロナ禍における就職活動への影響と今後の見通しについて」

参加者数：220 名（教員 144 名、職員 76 名）

### 3. まとめ

本研究会は、FD・SD 活動の一環として位置付けられた全学的な取組である。定期的かつ継続的に行うことで、大学の教職員として必要とされる知識を深め、ひいては大学全体としての共通認識を涵養することで、理念の実現に繋げるものである。

今年度の講演会の特徴として、コロナ禍への対応が結果的により実用的・実質的な FD・SD 活動に繋がったことが挙げられる。例えば、年度当初より授業形態の変更を余儀なくされ、急遽導入されたオンラインによる全面的な遠隔授業や、後期から実施することとなったハイフレックス型授業への対応として、オンライン授業の授業デザインの考え方や効果的な手法、評価や課題、遠隔授業の現状と今後の動向をテーマに取り上げた。また、令和 2 年度卒業者及び令和 3 年度以降の卒業者の就職活動への影響について、求人倍率の変化や企業の採用活動の動向、説明会及び採用選考方法の Web 化と今後の影響、必要となる準備支援対策について講演を行った。

講演会の実施方法については、新型コロナウイルス感染防止対策の観点からいわゆる「三つの密」（密閉・密集・密接）を回避する必要性が生じたため、オンラインでのライブ配信やオンデマンド形式に切り替えた。さらに、当日の講演会の録画を配信するフォロー研修期間を設定したことにより、非常勤講師を含むより多くの教職員の参加が可能になった。

次年度以降も、学内委員会等との連携・共催により、問題を多角的な視点から捉え、かつ焦点を明確にした FD・SD 研修会の開催が期待される。